

【第4回 多文化理解講座】子ども大使のアンゴラ共和国大使館訪問

令和6年7月30日(火) 14:00-16:30 区内在住・在学小学5・6年生 20名

せたがや国際交流センターの夏休み企画に応募した児童20名が「子ども大使」として区内代沢にあるアンゴラ共和国大使館を訪れました。連日猛暑が続く中ではありましたが、大使館のご理解とご協力のおかげで、楽しく有意義な企画となりました。

◇まず、大使館に到着した子どもたちを待っていたのは入国手続き。何と大使館の敷地内はすでに「外国」なのです。実際のビザ発給窓口にて特製の「せたがや文化財団国パスポート」に入国許可のスタンプを押してもらい、床も壁も白いタイルで統一された館内を、通訳の園田ベアトリスさんの誘導でレセプション会場のある2階に移動しました。

◇当日、残念ながら大使のテオドリダ・ローザ・ロドリゲス・コエリョ閣下がご不在だったため、会場入口ではカブラル・ラウレアノ・ナシメント・ネット代理大使、アナベラ・フェリックス参事官と名刺交換を行いました。初めての名刺交換にドキドキしたようですが、練習をしてきたのか英語で自己紹介をする児童もいました。

◇広いレセプション会場に用意された席には、アフリカ各国の国名と国旗、〇〇大使と肩書の付けられた子どもたちの名立てが置かれており、自分の名前を探しだして着席。代理大使による「〇〇国大使、〇〇」の紹介に対し、緊張しながらもマイクのスイッチをいれて返事をしました。実は、ここアンゴラ大使館では、アフリカ大陸各国の駐日大使が一堂に集まって会議を行うのだそうです。大使館のお取り計らいで、子どもたちを“会議に出席した各国の大使”という設定で準備してくださったのです。

○学習タイムでは、アンゴラ共和国クイズに挑戦。歴史や人口、経済、文化について学びました。質問時間には、代理大使や参事官に好きな食べ物

をたずねる小学生らしいものから、「どうして内戦がおこったのか?」といった踏み込んだものでありました。時間の関係で、すべての質問にお答えをもらえなかったのが残念でした。

◇学習の後は体験の時間。バオバブの実のジュースやアイスといった日本人にはなじみの薄いアンゴラの食べ物に加え、季節のフルーツやケーキがずらりと並んだアフタヌーンティー、ダンスパフォーマンスも加わり、予定の時間が延長になるほどでした。はじめはお互いにほぼ面識がなく緊張していた子どもたちも、しだいに打ち解けて仲良くなっていました。

◇最後はお待ちかねの大使館ツアー。大きな机のある会議室、本国とやり取りする時計の並ぶ事務の部屋、大使館の職員も入れない“とっておきの部屋”などにも案内していただき、貴重な時間を過ごしました。

◇「外国の人に会ったことがないので不安」と言っていた子どもたちも、最後は「また来たい!」と大使館を後にしていました。寄せられたアンケートには「ちょうどパリオリンピックだったので、早速アンゴラに注目しました」「ちがう国の人や文化への興味がわいたので更に調べたい」「自由研究で詳しく調べたい」「海外と関わる仕事をしたいと思った」などの声が寄せられ、はるか遠くにあるアンゴラ共和国の文化に触れたことで、思いを馳せ、身近に感じてもらえる機会を子どもたちに提供できたと思います。

